カトリック高松教区報

２０１６年１１月１３日（第１７５号）
発行所　カトリック高松司教区　広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区：catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報：tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成：　yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

マザー・テレサの言葉

わたしたちのいうことは大切ではありません。
わたしたちを通して、
神さまがおっしゃることが、大切なのです。

四国にドミニコ家族が集結
会設立800年　原点に返り新たな歩み

ドミニコ会（説教者会）設立800年を記念し祝うために、10月10日、松山市にある聖カタリナ・セミナーハウスで、カナダ管区とロザリオ管区ドミニコ会、女会、聖ドミニコ女子修道会、聖ドミニコ宣教修道女会、聖ドミニコ信徒会、ロザリオ信心会のドミニコ家族130人が参集した。日本でこの家族が一堂に会したのは初めてで、800年という節目の年に聖ドミニコの原点に返り、そこからの新たな歩みを決意した。

午前は聖ドミニコ女子修道会のSr・ベネディクタ武田が「ドミニコ家族の祝いにあたって」をテーマに講演を行った。（本面記事参照）続いて諏訪司教司式のもと、共同司式ミサで感謝を捧げた後、ドミニコ家族として食卓を囲み、聖歌等の出し物で盛り上げ、食事を楽しみながらお祝いの時を過ごした。

聖ドミニコ宣教修道女会の中山紀美子シスターに会の模様を紹介してもらった。

説教者兄弟会（ドミニコ会）を認可してくださった教皇ホノリウス3世の継承者として時空を超えて、2016年10月10日、カトリック高松教区長諏訪榮治郎司教さまご列席のもとに、ドミニカンファミリーのご縁のある神父さま・シスター方・信徒の皆さんと聖カタリナ学園高等学校セミナーハウスで集うことができました。

ドミニカンファミリーが一堂に会する喜びのうちに、シスター・ベネディクタ武田のテーマ「ドミニコ家族の祝いにあたって」の講演・ミサ・祝賀会を催すことができました。

この会に先立って、ドミニコ会の5つの修道会の代表（実行委員）の皆さんは、昨年8月から実務を担当し、この日のために月1回、伊丹ロザリオ修道院に集まり、直前まで準備を重ねました。

ジュビレを祝う集いを計画し、東日本では、7月18日（海の日）に東会場（カトリック渋谷教会）で、岡田武夫大司教さまに主司式をお願いしました。

西日本では、10月10日（体育の日）に四国会場（松山市北条聖カタリナ学園高等学校セミナーハウス）で、諏訪榮治郎司教さまに主司式をお願いすることに決めました。参加者（招待者）記念誌・典礼・諸費用等、何をどのように進めるのか活発な意見交換をしました。

記念ミサには、主司式の諏訪司教さまと教区の神父さま・ドミニコ会（ロザリオ管区・カナダ管区）オブレート会・スペイン外国宣教会の神父さまに支えられ、励まされ、助けられ、育てられて「いま」があります。

私たちはたくさんの神父さまの中での司教さまの説教は、ドミニカンファミリーが「地の塩・世の光」であり続けるようにとの励ましのお言葉とJR坂出駅の近くに「美しい街角」があるとの心あたたまるお話でした。

司教さまは「一つまみの塩でラーメンのおいしい味付けが決まり、塩は姿を消して他のものを生かします」とおっしゃいました。

塩はお料理の味付けに使われ、塩加減一つでおいしい味が決まります。

それに塩は清めの意味があり、食物が腐らないように長く保存することができます。

教皇ホノリウス3世のお言葉である「世界の真理の光」となることは、ドミニカンファミリーの使命ですが、司教さまも世の光として輝くようにと熱く語られました。

司教さまのおっしゃった「美しい街角」は、教会と修道院と聖マルチン病院が一体化しています。

そこには神父さまたちの希望の光があり、シスターたちのあたたかい笑顔があります。

医療に携わる人々・病める人々・そのご家族等の心の通う出会いがあります。

何と美しい街角でしょう。世界各地の使徒事業も神さまの光を受けて、ますます輝きを増すようにと念願しないではいられません。

教皇フランシスコは、神のいつくしみの特別聖年とドミニコ会のジュビレが重なることをこの上なく喜ばれました。

ブルーノ・カドレ総長さまもドミニカンファミリー全メンバーへのメッセージで「神のいつくしみを告げ知らせるミッションを中心にした、み言葉への奉仕を新たにするように」との特別な呼びかけをされました。

世界各地で祝われるジュビレ年を機に、会の起源・歴史・伝統を想い起こし、ドミニコ会の先達が大切にしたことを大切にしたいと思います。

神さまの呼びかけに応えた兄弟（姉妹）とともに生きる共同体に感謝し、世界のドミニコ会パワーを発揮し、福音宣教の新たな力強い一歩を踏み出したいと願っています。

聖父ドミニコが望まれたように、あわれみの母マリアのご保護のもとに、ドミニカンファミリーが一つになって、「今日と明日の世界」に神さまのいつくしみをもたらすことができますように、心からお祈りしています。

聖ドミニコ宣教修道女会
Sr・中山紀美子

美しい街角で「地の塩・世の光」となれ
諏訪司教、記念ミサで励ましの言葉

ミサの中での司教さまの説教は、ドミニカンファミリーが「地の塩・世の光」であり続けるようにとの励ましのお言葉とJR坂出駅の近くに「美しい街角」があるとの心あたたまるお話でした。

司教さまは「一つまみの塩でラーメンのおいしい味付けが決まり、塩は姿を消して他のものを生かします」とおっしゃいました。

塩はお料理の味付けに使われ、塩加減一つでおいしい味が決まります。

それに塩は清めの意味があり、食物が腐らないように長く保存することができます。

教皇ホノリウス3世のお言葉である「世界の真理の光」となることは、ドミニカンファミリーの使命ですが、司教さまも世の光として輝くようにと熱く語られました。

司教さまのおっしゃった「美しい街角」は、教会と修道院と聖マルチン病院が一体化しています。

お祝いのパーティで談笑する参加者

コーラスで盛り上げるシスターズ

ドミニコ家族の祝いにあたって
武田シスターの講演要旨

聖ドミニコの息吹、それを表現すると「修道会はオーケストラのようです。」

聖ドミニコの会は800年前に第一楽章が始まりました。その歴史は、日々新たな神の創造の中で、新しい楽章の展開です。

「行って、福音を宣べ伝えなさい、すべての人の救いのために」。指揮者は聖ドミニコです。オーケストラはまだ終わっていません。

この曲には前奏があります。1206年6月、カタリ派異端に対する教皇勅使たちの活動の成果が上がらずそこにディエゴ司教とドミニコが加わりました。

ドミニコはカタリ派の総本部の様相を呈していたファンショーの教会の主任司祭になり、ここを本拠地として南仏一帯の宣教活動を繰り広げました。

1215年、ドミニコと共に働く説教者たちは、南仏、トゥールーズ教区の説教団として教会内に公式に位置づけられ、1216年12月22日には教皇の確認を得て、司教区を越えた、全世界規模の説教団として発足しました。

ドミニコはその活動を教皇との緊密な連携と示認のもとに次々と行いました。

1220年、説教者兄弟会の会憲を定めた総会議は、会憲に序文を加え、上長者たちに説教者会の目的を果たすため、生活の諸要素と隣人の霊魂に益あるものとして調和させるための「免除」という重要な権限を与えました。この「免除」は会憲の一部をなしています。

修道院設立時、ミサ聖祭を行い、説教をするために教会の寄贈は受けましたが、教会に属する財産は、所有者の手に残すか、司教区に返納し、貧しく、托鉢で生きました。

ドミニコ会の歴史を解説する筆者

全世界大に組織立てられ、管区に分けられて、会員は未知の地へ向けて派遣されました。

私たちは、800年祭の間、「Laudare, Benedicere, Praedicare・ドミニコは兄弟を2人ずつ送られた。新しい宣教の道を見出すために」と、世界中で、繰り返し歌っていますが、まさにこれが800年祭を祝う意義でしょう。

ブルノー総長は「今日の新しい諸文化・生活様式を見るとき、私たちは自分の話し方、教え方、存在の在り方まで変えます。それが会の源泉からの再生となります」と語ります。

フランシスコ教皇も、私たちに変わることを求めて「この聖年に、福音の力を体験する恵みを神に願い求めましょう。それはわたしたちを変え、わたしたちが神の心に入り、人を赦し、より善意に満ちた心で世界を見られるようにしてくれます。

十字架につけられ、復活したかたの福音を受け入れるなら、わたしたちの全生涯は、すべてを新たにしてくださるキリストの愛によって形作られるでしょう」、と語られました。（2016年4月6日の一般謁見）。

世界は常に動いています。私たちの宣教も日々新でなければ人々との対話は不可能です。イエスに倣いドミニコが彼の時代に鋭く見抜き、始めたことを、私たちが生きること、800年祭を祝うとはまさにこのことではないでしょうか。

聖ドミニコ女子修道会
Sr・マリア武田教子

説教者ドミニコを生きること大切

1220年5月、聖別された教会を持っていない場合、ミサをささげることが出来ないため、ドミニコは、どこでも、携帯用祭壇の上でミサを捧げてよいという画期的な許可を教皇から受け、教会のない辺境にまで進出して行くことが容易になりました。

また、司教区ごとに定められていた典礼を一つにする試みがドミニコの時代から始まり、最初のドミニコ会典礼と聖務日課書が作成されました。

教会の正式な説教は、教会の公用語であるラテン語で行われていましたが、ドミニコは、どこででも、人びとが話す俗語で説教しました。

1221年ドミニコ存命中の最後の総会議で、会は

はばたき

いつくしみの特別聖年は11月20日、王であるキリストの祭日に幕を閉じます。

「いつくしみはとこしえに」（詩136）と繰り返されているように、歴史を通して旧約の時代、イエスの時代、そして現代に至るまで、人間は神のいつくしみを必要とし、いつくしみのうちに生かされています。

教会は、「神のいつくしみの泉へと人々を近づける」ために存在し、人々がその泉にやってきて、飲み、潤され、喜び、顔が耀く時こそ教会として真に生きているということになるのでしょう。

そのために、私たちの行う教会活動はどんなものでも、いつくしみと優しさで包まれたものでありたい。いつくしみの雰囲気づくり、というものが私たちに問われているのではないかと思います。

いつくしみの根本精神は「互いに愛し合いなさい。わたしがあなたたちを愛したように」（ヨハ13・34）というイエスさまの教えてくださった愛です。

愛のあるところにゆるしがあり、ゆるしのあるところに愛があります。

「神が人々に望んでいるのは、いつくしみ深くなり、他者をゆるして、受けた愛を無償で与えることです」と教皇様は話しておられます。

この聖年をきっかけに、これから生涯いつくしみを生きるために、愛とゆるしを身に着けるよう努めていきたいものです。

修道院紹介

聖ドミニコ宣教修道女会
小豆島修道院

海辺の景勝地で神を賛美

修道院ルルドの前にて

私たち小豆島修道院の歩みは、昭和47年に小豆郡で最初に開設された特別養護老人ホーム「マリアの園」と切り離すことはできません。

時代の要請、内海町元町長・川北さまの老人福祉に対する熱意に動かされてホームを開設することになり、故岩永千一神父さまの働きかけによって、聖ドミニコ宣教修道女会のシスターが派遣されてきました。

前方には内海湾が一望のもとに開け、後方は見事な岩山を頂くすばらしい景勝の地にホームと修道院が並んで建っています。

現在7名のシスターが共同生活をしていますが、朝夕の祈りの時、ご聖体を見つめながら毎日小鳥の声を聴き、聖堂の左側には、キジが歩いている姿も見受けられ、右側には、草壁港から出発するフェリーの汽笛が聴こえ、海に沈む夕日を感じながら神さまを賛美しています。

小豆島町は小さな町ですが、フェリーに乗っても、買い物に行っても、「マリアのシスターですか？」「マリアさんには、○○がお世話になったんですよ、とってもよくしてもらいました」と言って私たちの使徒職を感謝してくださる町の方々に出会うことが度々あります。

小豆島修道院全景

小豆島は祈りと巡礼と、もてなしの心が人々の心に深く生きています。これからも、宗派を超えて、町の人々に愛と優しさと、神さまの慈しみが伝えられるよう、そして島の灯となることができますようにと願いながら地域に根差した宣教の道を歩んでいきたいと思います。

ひと

『聖歌は祈り』指導続けて57年

松山教会　蔵田　五十憲さん（78歳）

『松山教会で聖歌の指導を始めてから57年になるんですよ』。淡々と語る蔵田五十憲さんの言葉に驚いた。

半世紀以上にわたって、ミサ・典礼という教会にとって大切な祭儀を支え続けてきたということだ。

蔵田さんは昭和34年、愛光学園に採用が決まったとき、松山教会の聖歌の指導も依頼され、それ以来続けてきた。当時はミサもラテン語で、聖歌もラテン語が多かった。

その後、第二バチカン公会議以降は、日本語の祈り、聖歌が取り入れられた。

高松まで行って作曲家の高田三郎さんから新しい聖歌の歌い方など厳しい指導を受けた。

松山教会は四国で信徒数の最も多い教会だけに、蔵田さんは多くの人が声をそろえて歌えるように気を配ってきた。広い聖堂のすべての人が心を一つにできるように時には前に出て指揮をする。

ミサは信徒たちが心を合わせて神様を讃え、感謝し、聖歌を歌って祈りを捧げる。その裏方としてずっと典礼を支え続けてきた。

『いろいろ苦労もありました』と57年間を振り返る。これからは『体が続くうちは』とも思うが、『そろそろ』とも考えている。それでも、今も年齢を感じさせない蔵田さんの力強い張りのある歌声は健在である。

道後教会　丸尾　修

『典礼奉仕』のために (26)

典礼ひとくち解説　その３
「感謝の典礼、一致の姿」

高松教区典礼委員長　谷口広海

新しい「ローマ・ミサ典礼書の総則」に基づく変更箇所が昨年11月29日から施行されてそろそろ1年が経とうとしています。

それにもかかわらずミサ典礼書の言葉に関する部分はまだ正式な変更箇所の発表には至っていません。

これはミサ典書の改訂と同時に大幅な変更となることによる混乱を避けるという側面からみれば、うなずけることかも知れません。

今回の変更箇所の施行状況を見れば、施行開始からほぼ1年になろうとしているにもかかわらず、司祭、信徒の意識の間に、ある程度の落差があることの査証ということも出来ます。

感謝の典礼を司式する司祭の責任と影響力には大なものがあります。

第2バチカン公会議による典礼憲章＝聖なる典礼の刷新の一般基準＝典礼に関する聖職位階の管轄権第3項には、〝たとえ司祭であっても、自己の考えで典礼に何かを加えたり、削除したり、変更したりしてはならない〟と明記されています。

昨年来、教区典礼委員会として、新しい「ローマ・ミサ典礼書の総則」に基づく変更箇所の説明会を各地区・ブロックで実施してきました。しかしながら信徒の間からは、依然として説明とは違っている、どうして、という、不信と戸惑いの声が聞こえてきます。

何か変革や変化がある時には、それまでの習慣や慣れ親しんだことへのこだわりから、脱することがなかなか難しいのは、人間の常といえばそれまでかも知れません。

しかし、私たちの小教区、教区は日本のカトリック教会の1員として、日本の教会が目指す典礼の在り方に一致して取り組む姿が望まれるのではないかと思います。

教会は一つ、教えは一つ、典礼も一つというシンプルで単純な姿は、キリストにおける一致した姿をより鮮明に表すものとなるのではないでしょうか。

神学生便り

信徒の皆様の温かいおもてなしに感謝

宇和島・八幡浜巡礼

左2人目：ヨセフ助祭、その右：高山新学生

神学生は、毎年夏休みに教区内で、〝神学生合宿〟というプログラムに参加します。

今夏9月、山本一郎神父様の引率の下、ヨセフ助祭と高山は、5日から6日、1泊2日で南予ブロックを訪れました。神父様は、本当に心を込めて私達と交わって下さいました。

1日目は、西条教会で山本神父様の車に乗せて頂き、夕方には宇和島に到着しました。宇和島教会担当の田中神父様にご挨拶し、小教区のミサに与りました。

田中・山本両神父様が共同司式、ヨセフ助祭が説教等の助祭奉仕、私が祭壇奉仕をさせて頂きました。

小教区の信徒の皆様は温かく迎えて下さり、とても嬉しく思いました。ミサ後は、田中神父様や信徒会長さんのお招きで、数名の信者さんも働く郷土料理のお店でご馳走になりました。

そこでの分かち合いでは、私達神学生を励まして下さるお気持ちを感じ、胸が一杯になりました。

2日目は、八幡浜教会に向かいました。田中神父様やお隣りの幼稚園の園長先生のご配慮の下、聖堂で3人だけでミサを捧げました。

それは、特別な時間となりました。ヨセフ助祭は〝助祭〟として、私は〝祭壇奉仕者〟として、最後の神学生合宿に成るからです。

淡々とミサは捧げられましたが、だからこそ却ってそこにある意味や恵みを感じさせて頂きました。

山本神父様の「共に祭壇を囲む司祭」と言う言葉も印象的でした。

短い合宿ながら、豊かな交わりの時間でした。また、高松教区内の実に広い地域の皆様が色々な面で教区を盛り立てて下さっていることを、改めて感じさせて頂きました。

志願期を含め7年目の養成課程の私ですが、頂いている恵みにもっともっと心を開き、微力ながらも精一杯お応えして参りたいと思いました。これからもお祈りください。

神学生　高山　徹

白浜広島教区新司教が叙階
2000人が集い祈り祝う

教区長を示すパクルスを前田大司教から受け取る白浜新司教

列島が台風10号に襲われた9月19日、広島教区の新司教叙階式が行われた。

式には二千人を超える参列者が世界平和記念聖堂に集い、感謝の祈りと喜びに満ちた時を共有した。

主司式は2014年8月まで広島教区司教だった前田万葉大司教（大阪教区）。白浜満司教は叙階式の中で、司教座に着き、第四代広島教区司教として正式に就任した。

来賓として、駐日教皇大使館のパヴェル・オビエジンスキー参事官、サン・スルピス司祭会カナダ管区の管区長ジャック・ダルシー神父、カナダのエミリウス・グーレ名誉大司教（サン・ボニファス教区）、韓国釜山教区のソン・サムソク補佐司教らが出席。

広島県宗教者連盟、白浜司教の兄弟姉妹・親戚の方々と共に、日本の16人の大司教・司教、長崎教区や福岡教区をはじめ全国からの司祭・修道者、白浜司教と関係のある全国の方々、そして多くの広島教区民が新司教の誕生を祝った。

会場は多くの参列者を想定し、大聖堂、地下聖堂、エリザベト音楽大学セシリアホールを準備した。そのため、大聖堂以外は、モニターを準備し映像中継に合わせて祈った。また、その映像は同時にインターネットで外に向けて配信された。

午後一時半から始まった叙階式は滞りなく進み2時間半近くの式となった。

ミサの福音書朗読の後、叙階の儀が行われ使徒座の任命書がラテン語と日本語で読み上げられた。続く説教は前田万葉大司教が俳句を織り交ぜながら行った。

ミサの終わりに、日本カトリック司教協議会会長の高見三明大司教（長崎教区）の挨拶、続いて今年七月にポーランド・クラクフで開かれたワールドユースデー（世界青年の日）大会に参加した岡山、広島、鳥取の三人の青年が挨拶した。

最後に挨拶した白浜司教は、謙遜と感謝に満ちていた。

叙階式後、カトリック会館一階、マリアホール、野外テントの下は祝賀パーティーで賑わった。

青年たちは、白浜司教の紋章をデザインしたTシャツを販し、その日のうちに完売した。

この日の天候とは正反対に、終始、笑顔があふれた叙階式であった。

（本文は広島教区報よりの転載）

性的虐待から女性と子ども守る
高松教区でも対応へ

教会内の子どもと女性への性的虐待（セクシュアルハラスメント）に対応するデスクを設置する準備を進めています。

1990年代に米国で聖職者による子どもへの性的虐待問題が明るみに出ました。

バチカンはその問題を受けて、世界の教会にその事件が起こっていないか調査することを指示しました。

日本司教団によると、「司教たちには問題が上がってきていないが皆無ではなかった」という結果でした。

これを受けて日本司教団は、この問題に真摯に取り組んでいく方向で歩み始め、全国的（各教区）にこの問題（対象に女性も含め）に対応する窓口を設置する方針を打ち出しました（2002年）。

高松教区でも今後、「電話相談窓口」を設置し、調査・救済を担当する弁護士・カウンセラー等の「第三者機関」（大阪教区内に既存、または一般社会内）と連携し、これらを統括する「対応委員会」の設置に向けて一歩を踏み出すこととしました。

司教館でのこの問題に対応する窓口として、諏訪榮治郎司教が担当することになりました。

特集

感動的な講話、分かち合い
〈桜町で女性の会大会〉
静かな祈り、親睦深める

男性も参加し、和気あいあいの大会となった女性の会

9月10日の女性の会大会に、四国中から女性達が集まった。いや女性ばかりではない、男性も参加した。宇和島から朝早く家を出て参加した人もいる。心待ちにしていたのか、30分前にはほとんど集まっていた。

開会を前倒しして5分前の10時25分に始めた。笑顔の祭典の始まりだった。

力強いあめのきさきの聖歌が響いた。松永神父の導入の祈り、司教と委員長の挨拶（後に掲載）に続き、いよいよ村上神父の講話。参加者には予め配布され、読んできていた、フランシスコ教皇著「いつくしみの教会」の中の〈聖母に倣って〉の項をテーマに、実に感動的な分かり易いお話に時を忘れた。

そして、グループ別の分かち合いに熱中。グループのままでの昼食で話は途切れず、さらに親睦が深まった。

午後は聖堂に移動し、テゼの祈りで、静かな祈りの雰囲気はいやましたように感じられた。

そのまま、祈りの形式で、分かち合いの発表が行われた（後に掲載）。そして松浦神父様の閉会のご挨拶の後、集合写真を撮って和気藹々の中、来年の再会を約しつつ帰路についた。

曽我部輝子

曽我部委員長の挨拶

皆様こんにちは。一年ぶりに皆様にお会い出来、神に感謝です

女性の会大会は本日で、第8回を迎えました。けれども女性の会って何、とか、どうしてできたのとか、日カ連はどうなったの、などの疑問に答えるために、この機会に高松教区における女性信徒の歩みを、預かった古い書類を参照して、ご説明しようと思います。

1994年に高松教区女性連合として、日カ連（日本カトリック女性団体連盟）に加盟しました。

2004年に溝部司教様が着座されたその頃、司教様は小教区は閉鎖的、個人主義的で、一部の人の活動で小教区間の交流も少なかったように感じられたようです。

このような四国の教会の現状を憂慮されて、2007年に教区女性連合を再編成されます。そのため日カ連加盟は一旦休止とし、各県から女性の代表者を選び、今開いておりますこの会の発足を呼びかけられたのです。

準備段階として、高松で各県の代表者の集まりを持ちながら、各県でも女性の集まりを開き、Sr・ギリスの指導のもと、教会における女性の役割というテーマで、考える場を作られました。

その後、2008年12月に「女性の視点から教会を考える委員会」（通称女性の会）がSr・高松を委員長として発足致しました。

2009年には当桜町で、第1回大会が開かれました。ただ講演会を開くのが目的ではなく、教会は本当にこれでいいのだろうか、どうすればいいのだろうか、と考えるためでした。

女性だけが持っている特有の感性とか母性から、教会を動かして行くことができるのではないか。そうして四国の、縮こまり、塀を作っていくような教会を打破し、自由に外から入ってこれる教会をつくろうという目的があったのです。

（溝部司教様の言葉から）

それから6年経ち、小教区間の交流もでき、女性の団体としての輪郭が出来てきました。

女性の会々会員たちに挨拶する曽我部会長

聖母に倣い行動できますように

それはこの会が日カ連に加盟する形ができたと思われたからでしょう。

日カ連は、日本各地のカトリック女性信徒の団体が任意に集まったものです。それは世界に繋がっていて（世カ連）、日本の教会の動向や、パパ様からのメッセージをいち早く女性たちに知らせ、大きな視野から、教会を、さらに社会を考えています。

宗教を超えた活動や、祈りを通して、パパ様の「出向いて行きなさい」の呼びかけに、マリア様のように、素早く答える素晴らしい団体です。

日カ連加入も検討

今の私達の会としては、四国内が精一杯の実情で、加盟休止のままです。組織として、2泊3日で全国会議に代表を送ることになりますが、今後は、考えていいのかもしれません。ただ、個人的に賛助会員としての入会はいつでも可能です。

時を経て、小教区間の交流もできてきました。

また自由に入れる教会になりつつあるようにも思います。

諏訪司教が教書で呼びかけられたように、外国人信徒や、AAや、ダルクのグループの人たちに対しても、開かれてきたように感じます。

全信徒が心を開くことを意識しているかどうか、まだ十分ではないかも知れませんが、本日の会で、どうすればいいのかを考えて見ましょう。

聖母にならって、神の声を良く聞き、心して素早く行動することができますように、そして教会が神の望まれる方向へと進んで行けますようにと願っております。

今回から、遠距離参加の方に旅費の援助をすることになりました、旧女性連合の積立金を原資として使わせていただくことをご報告して、ご挨拶とさせていただきます。

「神の心を聴こう」10班から発表

日々の信仰生活の中で、祈りを通して色々な状況に、目を閉じてゆっくりとあなたに聴くことの大切さ、また立場の異なる隣人愛にとっても中々受け入れ難いものがあり苦しみます。

毎日みことばを読みながら、心が伴っていない自分に気づき、聖書がいかに神の深いいつくしみに根差したものか、日々反省させられる思いにかられました。

家庭での行動では、未洗者に対するマリア様への取次ぎを願う時、特に臨終の時、「み旨のままに」と言葉が出ますように。

これからは相手の立場をわきまえ、みことばを聞くことの出来ない周りの人々に、わたしたちが潔い行いをもってマリア様の聖徳に倣うことが出来ますように、この3グループの分かち合いをお捧げ致します。

子どもたちに豊かな信仰生活を

◇1班の祈り

シレネのシモンが十字架を担ったように、私たちの日々の生活の中にも強制された恵みがあることを知りました。その中で、聖霊の助けを借りながら、自由意志をもって、神のみ旨にかなう行動を選び取ることができますように。

◇2班の祈り

聴くことは待つこと。熟慮すること。神の言葉は、あらっ！と思ったときに入ってきます。何んで！！と思うときは多いけれど、何か意味があります。毎日の生活の中で忍耐強く聞けますように。

◇3班の祈り

女性としての聖母マリア様の、人々と教会に与えて下さった大きな恵みに、今日のテーマ「聖母に倣って」と題して分かち合い、沢山の心のひびきに目覚めさせてくださった事に心から感謝いたします。

「聖母マリアに倣って」班別に分かち合う

◇4班の祈り

毎日の生活の中で女性として、周りの人々の心の声を聞き取り、今何をすべきかを決め、行動することの大切さを悟らせた今日の集いに参加させていただいたことに感謝いたします。

日々の生活の中での苦しみや悲しみを主に問いかけて、主の声を聞き、その試練を恵みと感じられる生活を、これからもおくることが出来るようにお導き下さい。

◇5班の祈り

子供たちを私のところへ来させなさいと招かれるイエスよ、子供たちの信仰教育に困難を感じている私たちが、マリアの優しいまなざしを感じ、マリアに倣い、謙虚に恵みを受け止め、子供たちが集える教会となるよう勇気を持って働きかけることが出来ますように。

◇6班の祈り

祈りを聞いて下さるマリアよ、頼まれてくださるマリアよ、行くべき道を整えて下さるマリアよ、どんな時も落ち着いておられるマリアよ、あなたのように耳を澄ませて聞き、聞いたことを責任をもって守り、最上の業に生きることを決心します。

私たちが女性として、人々の中に新たな生命を取り戻すための行い、特に家庭での信仰を豊かなものとできるよう、マリアよ、あなたの使命に倣わせて下さい。

◇7班の祈り

父なる神よ、私たちが母マリアのように、聖霊の働きに身をゆだね、主と共に歩み、私たちを包むあなたの愛を輝かしていくことが出来ますように。

◇8班の祈り

私たちに与えられた十字架がどんなに重くても、笑顔を輝かせながら希望をもって担って行けますように。

◇9班の祈り

私たちは出来事や言葉に、出会いますが、その奥にある神様の思いを見出し、それを言葉と行動に表せますように。

◇10班の祈り

私たちは神の声を聴き、自分の中にとどめます。人の話のなかにも、神の言葉を聞き、それをを伝えられますように。

神の言葉に従って行動をする時、自分を知り、それを穏やかな安心した心で生きることが出来ますように。

あなたの仰るとおりには容易に出来ません。しかし、祈りの中で行動するとき、生きる喜び、聞く喜び、つながる喜びとなりますように。

浴衣で日本文化体験
坂出教会でヴェトナムデー

参加者全員で輪になって触れ合う

10月9日は3連休2日目、雨上がりの爽やかな1日となり、坂出教会で「ベトナムデー」と銘打ち、近隣の小教区からベトナム国籍の若者信徒50名ほどが集った。

この会の発端となったのは聖ドミニコ宣教修道女会のSr. 林が、日本文化の着物を一度は装ってみたいという、ベトナム女性の憧れを実現させたいという提案からだった。

この提案に賛同した松山教会の女性信徒4人が、着物の着付けより簡単な浴衣であれば、人数的にも多くの女性に装ってもらえると、つけ、実現の運びとなった。

集いの第1部は午後2時から始まり、浴衣を着た女性がにこやかに扇をゆらめかせながらの踊りや、ヴェトナム語の聖歌、3年の研修期間を終えて、近く帰国することになった数人の若者による感謝の言葉、最後に全員輪になってのダンスで交わりを深めた。

最初の集いにもかかわらず大勢が参集する

続く第二部ではドミニコ会司祭で、ヴェトナム人新司祭ピーター師が司式するヴェトナム語による歌ミサを喜びのうちに捧げ、聖体と御血による両形態の拝領で、その喜びは最高潮となった。

第3部は「アガペ」の部とし、和気あいあいのパーティとなり、互いが持ち寄った料理に笑顔で舌鼓を打った。

数日後にこの集いをコーディネートしたピーター師から坂出教会の信徒に感謝の手紙が届いた。

手紙には、慣れない日本の社会で、彼らの居場所を提供してくれる信徒への心からの感謝の言葉が溢れていた。

「皆さんの信仰の証として、この若者たちが快く受け入れられ、皆さんの父親、母親としての彼らへの関心が彼らに大きな喜びをもたらしています」と綴られていた。

ＴＳＣ便り

「カリタス米川ベースも」運営
大阪教会管区が東日本大震災支援で

２０１１年３月11日に発生した東日本大震災を受けて、大阪教会管区として一つにまとまり被災地の支援を行ってきました。

特に岩手県大船渡市に拠点ベースを立ち上げ大船渡市・陸前高田市の支援に力を入れてきました。震災から5年が経過した今では、災害公営住宅の建設も進み、被災した土地の再利用計画なども決まり被災地の復興は進んでいるように感じます。

しかし、仮設住宅での生活を余儀なくされている方、行方不明になった家族が帰ってくるのを待っている方など被災者の復興は道半ばです。

そんな中、大阪教会管区として新たな決断をしましたので皆様にお知らせいたします。

大阪教会管区東日本大震災復興支援は、現在支援を行っている大船渡市・陸前高田市に加えて、宮城県南三陸町の復興支援にも携わっていくことを決定いたしました。

具体的には、２０１６年10月から仙台教区サポートセンターが運営していた「カリタス米川ベース」の運営を引き継ぎ、大阪教会管区で支援を続けていくことになります。

大阪教会管区で担う地域は大きく広がることになります。「カリタス大船渡ベース」「カリタス米川ベース」を通して被災された方々に皆様のお気持ちを広く届けることができればと思います。

これからも皆様とともに、東日本大震災復興支援を継続していきます。引き続き、募金やお祈りなど復興支援にご協力をよろしくお願いいたします。

感謝のうちに

大阪教会管区
東日本大震災復興支援
担当司教　諏訪槃治郎

支援初期にベースを置いていた米川教会

教区スケジュール

11月
1日（火）†諸聖人
2日（水）死者の日
3日（木）文化の日
6日（日）年間第32主日
13日（日）年間第33主日「神のいつくしみの大聖年閉門式」桜町司教座聖堂 14:00
19日（土）13：00宣教司牧評議会役員会 高松教区青年の集いin桜町
20日（日）†王であるキリスト「聖書週間」（～27日）
21日（月）聖マリアの奉献　記
23日（水）勤労感謝の日
27日（日）待降節第1主日
30日（水）聖アンデレ使徒　祝

12月
3日（土）日本宣教の保護者聖フランシスコ・ザビエル司祭　祝
10：00一粒会の集い
4日（日）待降節第2主日
8日（木）†無原罪の聖マリア　祭
11日（日）待降節第3主日
18日（日）待降節第4主日 ICCフェスティバルin桜町 9:00～14:00
23日（金）天皇誕生日
25日（日）†主の降誕　祭
26日（月）聖ステファノ殉教者　祝　会館大掃除予定
27日（火）聖ヨハネ使徒福音記者　祝　諏訪司教霊名日
30日（金）聖家族　祝

高齢化の中で活動する道後教会
受洗者の増加 大きな喜び
信徒たち入門講座を担当

昨年12月8日に開幕した「いつくしみの特別聖年」が間もなく終わろうとしています。

道後教会も、信徒の高齢化が進んでおりますが、70歳代の壮年会の皆様が活躍しております。高齢化が進む中でも悲観することなく、永い教会活動と信仰生活、そして多くの経験と知識を持った高齢の皆様は、道後教会の宝です。

道後教会では、今年度の活動計画として、第1の目標を、「いつくしみの特別聖年」を過ごす。として、「ミサを味わう」、「高齢者の交通不便者に寄り添う」ことを目標に、翌週の「聖書と典礼」を持ち帰り、事前に目を通してから主日のミサにあずかるように、薦めています。

また、高齢になると、みんな誰かの手助けが必要になってくることから、送迎の手助けをすることとしました。

第2の目標として、福音宣教を掲げ、「地域につながった教会」、「声かけお誘い」「新入門講座」の開設をかかげました。

教会は今、何をやっているのかを地域に知ってもらうことは大切で、そのために広報紙「のぞみ」をご近所や友人知人に配布したり、教会行事の案内をしています。

教会には多彩な特技や資格を持っている人もたくさんいます。

幼稚園のお母さんを対象に「フラワーアレンジメント教室」や、「編み物カフェ」、また、毎週、「コーラスグループ」の歌の練習等開催しています。いずれも、未信者の人も自由に参加できるものです。

今年夏からは、毎月、「憩いの日」を設けました。軽い体操とお茶を飲みながら自由にお話しする場を提供して、一人暮らしの高齢者や、年齢・性別を越えて団らんできる場として頂けるようにしました。

初めて教会に見えた人には、案内係がついてミサの案内や、入門講座の案内等行っています。

第3の目標として、信徒の交流親睦を掲げ、毎週、ミサ後に月一回は有志により、ケーキとコーヒーの「日曜喫茶室」をオープンし、ミサ後の信徒の交流の場となっています。

ここ数年、道後教会では新たに洗礼を受ける人が増えてきました。これは大きな喜びです。定年退職したご夫婦や、結婚前のカップル、幼稚園のお母さん等、様々です。

入門講座は受講者の生活状況により、自由に時間を調整できるようにし、私達信徒が当初は一緒に勉強し、途中経過を担当司祭に報告するとともに、洗礼の前には担当司祭により最後の勉強が行われます。

また、洗礼を受けた後は、聖書勉強会に参加するようにもすすめております。

毎週、火曜日には教会の事務局会議を開催し、教会の全体的な課題・企画、作業、反省等を行い、実働的役割を果たしています。

道後教会

イエス様は最も重要な掟として、「隣人を自分のように愛しなさい。」と教えられました。日々出会う人々のために、私達はどんな奉仕ができるか、悩みながらも交わりを大切にしています。道後教会の皆様は年齢に負けず、それぞれの場で頑張っています。

道後温泉の近くに位置することから、聖堂を訪ねてお祈りしていく観光旅行者も多く、これらの人も温かくお迎えしたいものです。

道後教会　坂本喜久夫

霊性センターに移転ほぼ完了
―三本松小教区―

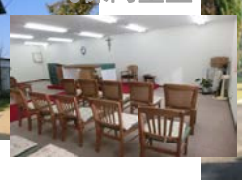
三本松教会は3年ほど前から東かがわ市水主（みずし）にある霊性センター（旧神学院）C棟で主日のミサを月に1度行ってきました。

その後、２０１６年の復活祭を機に完全移転に漕ぎ着け、この秋には三本松小教区の所在は水主なり、旧三本松教会からの引っ越しはおおむね完了しました。

旧三本松教会の今後は、使用状況を見ながら対処していくこととなります。

霊性センター管理責任者・担当司祭はロビンソン師です。

旧三本松教会


C棟内聖堂

霊性センターC棟 三本松教会

新　刊　書　籍　紹　介

■『今こそ原発の廃止を』
日本のカトリック教会の問いかけ

東日本大震災から8か月後の2011年11月に司教団が発表した脱原発のメッセージを補完して、科学的、哲学的、神学的な裏づけをなす。

核エネルギー利用の歴史をひもとき原発事故当事国である日本の責任を問い、核技術に関する科学的な解説をなしたうえで、カトリックの教理と現代の環境思想を踏まえた核をめぐる倫理的な考察を展開する。

判型：A5 ページ数：288
本体価格：1800円
日本カトリック司教協議会編纂委員会編

■「マイバイブルⅡ」み言葉の宝石箱

カトリック教会は今、いつくしみの特別聖年を祝っています。各地の指定聖堂への巡礼と共に、聖書を読み、秘跡に与（あずか）り、いつくしみ深い神様の救いの業を知り、そのお語りかけを聞きながらじっくり味わい分かち合うことが勧められています。

この本の出版はわたしたちにとって、本当にタイムリーなできごとです。今、真理と愛、そして本物の生き方を心から求めている多くの人々が聖書を手に取り、読み、味わい、いのちの言葉によって生きるようになることを心から願っています。この小さな本、「マイバイブルⅡ―み言葉の宝石箱―」は、そのための大きな助けとなるでしょう。

マイバイブルⅡの序文より

定　価：６００円（税別）
購入先：女子パウロ会　サンパウロ社
日本キリスト教書販売㈱　大手書店

TSC高松教区サポートセンター
東日本大震災大船渡支援
献金入金報告（含お米券）
（7月1日～10月31日分として）
20万7895円
累計（10月31日現在）
1千714万9802円

熊本大地震被災地支援
福岡教区の支援窓口と、カリタスジャパン、「熊本地震」緊急募金受け付け窓口へ直接にお願いします。

福岡教区
福岡中央銀行（平尾支店）
口座番号・（普通）１０７６２０６
加入者名・宗教法人カトリック福岡司教区
代表役員　宮原良治
送信者の名前のあとに「クマモトジシンシンエンキン」と書いてください。

カリタスジャパン
郵便振替番号００１７０－５－９５９７９
加入者名・宗教法人カトリック中央協議会　カリタスジャパン。通信欄に、「熊本地震」とご明記ください。

編集後記

暑かった夏から秋が深まる11月、「神のいつくしみの特別聖年」が閉幕を迎えようとしています。

信者一人ひとりは、どんな慈しみを味わったのか、どんな神体験に出会ったのかが気になるところです。でも、「神のいつくしみ」は永遠です。素晴らしい恵みです。

今年も6号に亘って教区報をお届けすることが出来ました。気が早いかも知れませんが、新年1月号も気持ち新たに取り組んで参ります。宜しくお願い致します。（J）

聖ドミニコ宣教修道女会

私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう
暁の星学園
鳴門聖母幼稚園　高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園　海の星幼稚園